

行政視察報告

| | | | |
|------|------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 委員会名 | 建設環境委員会 | | |
| 視察日 | 令和元年5月14日(火) | | |
| 視察先 | 山口県周南市 | | |
| 視察委員 | 米山真吾 委員長 江口ひさみ 委員 おりかさ 明実 委員 | 梅沢とよかず 委員 向江すみえ 委員 きょうづか理香子 委員 | 筒井たかひさ 委員 中村けいこ 委員 みずま 雪 絵 委員 |

| | | | |
|--------|---|--|--|
| 調査項目 | (1) 徳山駅周辺整備事業について (2) しゅうなん通報アプリについて | | |
| 事業概要 | <p>(1) 周南市では、「まちのストックを活かした、豊かな心を育む公園都市（パークタウン）周南」を中心市街地におけるまちづくりの理念に掲げ、計画事業を推進してきた。JR徳山駅南北自由通路、同橋上駅化するなどの駅周辺事業が進展し、平成30年2月には徳山駅前賑わい交流施設が開館するなど、賑わいの創出に向けて取り組みを続けている。</p> <p>(2) 平成30年4月からアプリの提供を開始し、スマートフォンを利用して、市が管理する道路、河川、公園などの公共施設の異状箇所や、不法投棄などの情報をもらうことで、異状箇所の早期発見、早期対応を図り、安心・安全なまちづくりに取り組んでいる。</p> | | |
| 視察内容 | <p>(1) 徳山駅周辺整備</p> <p>a 北口駅前広場 広場面積 7,400平方メートル⇒7,800平方メートル 環境空間比 0.25⇒0.53 乗り換えの利便性強化や既存商店街との連携強化など 平成29年度 工事着手 平成31年度 完成予定</p> <p>b 南口駅前広場 広場面積 2,980平方メートル⇒3,800平方メートル 環境空間比 0.32⇒0.44 平成25年度 工事着手 平成32年度 完成予定</p> <p>c 南北自由通路 バリアフリー化していない地下道で連絡していた徳山駅の北側と南側を結ぶ、空間的余裕を確保し、バリアフリーに対応した自由通路を整備。 ・自由通路の整備に併せて、徳山駅舎を橋上化 平成23年度 工事着手 平成26年9月 供用開始</p> <p>d 賑わい交流施設整備事業 ・平成24～29年度で実施 ・交通結節点であるJR徳山駅前に、多くの人が集う賑わい交流拠点として、新たな徳山駅前賑わい交流施設を整備する ・徳山駅周辺デザイン会議や、市民参加の徳山駅周辺まちづくりシンポジウムを開催 ・ブック&カフェが併設された民間活力導入図書館を、賑わい交流施設として整備することとした ・平成30年2月に賑わい交流施設オープン</p> <p>(2) しゅうなん通報アプリ ・アプリに係る予算 開発のための委託料 約119万円 平成30・31年度 保守委託 36万7,000円 持ち出し用タブレットの通信費 9万9,000円 ・通報件数 1年間で557件</p> | | |
| 主な質疑内容 | <p>(問) 駅舎は橋上化した際に96%周南市が負担したということだが、整備した駅舎については所有者はJRと周南市どちらになっているのか。</p> <p>(答) 改修前の駅ビルの1階にJRの設備（信号設備、改札など）があり、機能保証と言う形で市が整備し、JRに引き渡した形である。</p> <p>(問) 賑わい交流施設の整備スケジュールで、平成26年1月に基本・実施設計業務委託に着手とあるが、デザイン会議の方がその業務委託にかかわっているのか、それともデザイン会議の検討が終わってから、業務委託を行ったのか。</p> <p>(答) 駅周辺の整備事業とは別に賑わい交流施設の整備について、プロポーザル方式で業務委託を発注した。契約した建築事務所がデザイン会議と連携して、南北の広場を含めたトータルデザインを行い、駅ビルについて設計業務を行った。内装については指定管理者となるCCCが設計を行ったが、市・建築事務所とも連携は取っていた。</p> <p>(問) しゅうなん通報アプリ開発費が約120万で安価だと感じた、実際に使ってみてのメリットや足りない点があれば教えてほしい。</p> <p>(答) 市内の業者であり、少し加工すれば通報アプリに使えるシステムをすでに持っていたということもあり、開発費が圧縮されていると考えている。</p> | | |

行政視察報告

| | | | |
|------|-----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 委員会名 | 建設環境委員会 | | |
| 視察日 | 令和元年5月15日(水) | | |
| 視察先 | 兵庫県加古川市 | | |
| 視察委員 | 米山真吾 委員長 江口ひさみ 委員 おりかさ明実 委員 | 梅沢とよかず 委員 向江すみえ 委員 きょうづか理香子 委員 | 筒井たかひさ 委員 中村けいこ 委員 みずま雪絵 委員 |

| | |
|--------|--|
| 調査項目 | 食品ロスの削減の取り組みについて |
| 事業概要 | 加古川市では、平成25年度から平成33年度までに燃えるごみを20%減量化する取り組みを行っており、燃えるごみの中に多くの食品ロスが含まれていることから、食品ロス削減に向けた取り組みを行っている。平成30年度には市民モニターを一般公募し、廃棄した食品の種類や量、廃棄理由、保存方法などを日記形式で記録する「食品ロスダイアリー」に記入する食品ロス調査を行い、その結果を参考にして食品ロス削減講演会・学習会を実施し、生ごみや食品ロスの削減への理解を深めるなど市民とともに食品ロス削減に取り組んでいる。 |
| 視察内容 | <p>1 経緯</p> <p>2 具体的な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 食べきり運動協力店制度(店舗を直接訪問、商工会議所への協力依頼等) 平成28年度制度開始時(12月)に居酒屋などの宴会が多い飲食店(179件)に対して案内文を郵送。27件登録があった。 平成29年度:5月に全飲食店・小売店(960件)に案内文を郵送。53件登録があった。 平成30年度:8月より開始した事業所訪問委託において、分別の徹底などごみ減量への協力を依頼するとともに、食べきり運動協力店の登録について案内している。 平成28年11月、平成29年2月、平成31年5月には、商工会議所発行の会報誌「商工かこがわ」において、協力店の募集に関する記事を掲載した。 家庭系燃やすごみの実態調査(組成調査) 実施:平成29年6月 結果:未使用食品は6%、食べ残しは9% コープこうべが実施する「フードドライブ」を後援 食品ロスダイアリー 実施期間:平成30年7月23日(月)～8月19日(日) 回答者数:71名 ※ごみ減量に関心のある人が取り組むケースが多いため、興味のない市民に取り組んでもらうための啓発が課題。 <p>3 成果</p> <p>燃やすごみの焼却処理量は、平成30年度末において、22.3%減(平成25年度比)となっている。食べきり運動協力店については、事業所訪問を委託により実施することで、より多くの店舗を訪問することができ、登録は141店舗(5月13日現在)になった。</p> <p>4 今後の課題</p> <p>食品ロス削減に関する施策は、事業推進の結果が具体的な数値に表れにくいという側面があるが、これからも、食べきり運動協力店制度についての店舗への周知や、食品ロス自体を市民に周知することなど、啓発等を中心に継続して実施する。なお、食品ロスダイアリーについては、小学4年生を対象とした「夏休みごみ減量チャレンジ!」として今年度実施する。</p> |
| 主な質疑内容 | <p>(問) 食品ロスダイアリーについて、回答者数71名とのことだが、総数はどのくらい配って、この回答数だったのか。</p> <p>(答) 初めての取り組みであったので、100名募集して、ダイアリーについても100部を印刷し、応募者数は約80名であった。今年度については、小学4年生を対象とした企画として行う予定で、それへの応募状況等を見た上で今後の対象人数などの拡大を検討する。</p> <p>(問) 食べきり運動協力店で小盛りメニューの提供でや持ち帰り対応などを実施しているということで、市民の方にも食品ロス削減の意識が定着していると感じているか。</p> <p>(答) 対応をすでにおこなっているもので、ぜひ参加させてくださいという店が最初は多くあった。どこまで効果があったのか、検証をしなければいけないと思っているが、現在はそこまで手が回っていない状況である。</p> |